

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ほっぶ蒲郡		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 17日		～ 令和7年 3月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 10日		～ 令和7年 3月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 14日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「環境・体制」や「適切な支援の提供」について良い評価を多くいただいたことに感謝している。専門性を持った支援員がそれぞれ意見を持ち、適切なものを探していることがつよみになっている。	「環境・体制」については、こどもが過ごしやすいよう、楽しく、わかりやすく意識し検討しながら工夫している。 「適切な支援の提供」についても、専門性を持った支援員がそれぞれ意見を出し、保護者とも相談しながら進められている。	バリアフリーがまだ不十分であることを洗い出し、改善に向けて取り組んでいく。 より良い支援につなげるため、支援員の専門性を高める活動に取り組んでいく。 支援員にとっても働きやすい環境を整えていく。
2	「保護者への説明」についても、保護者さまの協力を得て、適時行うことができ、より良い支援及び事業所への理解につなげることができている。	入所説明(契約時)を個別で行っており、説明時に質問があれば都度答えるようにしている。 担当者会議以外にも、年に複数回、個別で話を聞く機会を設けており、事業所からの説明、保護者からの説明を話し合う場を設けている。	ペアレントトレーニング等、保護者向けの研修を行うよう企画していく。 保護者やきょうだいの交流の場を増やしていく。
3	「非常時の対応」「満足度」についても良い意見をいただいた。支援については、こどもが「行きたい」と思えることが重要となってくるので、楽しい空間づくりを意識している。	「非常時の対応」については、毎月防災の週を定めて、地震の際の行動を確認している。 「満足度」については、楽しく安心して過ごせるよう、個人の特性を考慮しながら、遊びや場所の提供を行っている。	非常時の対策について、起こりうる災害を細分化し、場面によりどのような対応をしていくのか定め周知していく。 安心、安全に配慮しながら、楽しい活動を企画していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童クラブや児童館との交流等、地域の人たちとの関わりが少なく、地域の理解が得にくい状況がある。	児童館への訪問を行ったことがあるが、施設側の理解も少なく、構造化などもされていなかったことで、こどもがストレスを抱える状態になってしまい早急に帰った経験が残っている。公共の施設の利用についても、放課後等デイサービスがどのような場所なのか理解がなかったため、利用について断られることがある。	地域の人に放課後等デイサービスがどのような施設なのか、どのような子どもが通っているのかを丁寧に説明していき、理解を深めていく。 交流の場を増やしていき地域とのつながりを多く持つ。
2	バリアフリー化や個室の整備等を行えていない部分がある。	トイレ等の改善に工事が必要な部分の改善が後手になってしまっており、以前より出されている課題について解決できていない。個室については現在パーテーションを用いて他との環境を分けているが、完全に隔てることはできていない。	トイレのバリアフリー化に関しては、今後も予算、期間を考慮しながら、できる時期を常に検討していく。 個室についても、完全に隔てることは難しいが、より近い環境をつくって行けるように構造を見直していく。

3	学校、保育園等、関係機関との連携が取れていないことがある。	学校との情報共有は個人情報といわれてしまい共有してもらえないことがある。 放課後等デイサービスが何を行っている場所なのか学校の先生たちに知られていない。 学校と事業所の職員の勤務時間が合っていないので、情報共有の場を設けにくい。	こども部会等を通じて、お互いに情報共有ができるよう、体制を整えていっている。 情報等の共有を積極的に行えるよう、事業所から声をかけていく。 事業所の入所前や退所後も情報を追いかけるようにしていく。
---	-------------------------------	--	--